

創業者インタビュー 「夢」を創りだす技術者集団でありたい

取締役会長 安藤 正如

製品の「当たり外れ」をなくしたい思いから

私は若い頃から「モノづくり」にこだわって物事を考えるたちで、創業のきっかけも、そのようなこだわりから生まれました。



戦後、日本経済が立ち直りつつあった昭和 20 年代後半の話ですが、当時の市場に出回っていたラジオやテレビなどの電化製品にはよく「当たり外れ」がありました。たとえば同じメーカーから同じ製品を買っても、隣りの家では無事に使えるのに向かいの家では故障が多いなど、品質にばらつきがあったわけです。それを私は非常に不合理だと思ひまして、そういうことをなくすにはどうすればいいのかと考えていました。

すべての製品はさまざまな部品によって組み立てられていますから、部品ひとつひとつが、いかに均一に同じ精度で仕上がっているか、それこそが当たり外れをなくすための基本です。そういうことを考えているうちに、自分の持っている電子技術を生かして日本製品の品質向上に取り組んでみたいという気持ちが芽生え、やがて凌和電子

を創業し自分の思いの具現化に取り組みだしました。

「計測」と「制御」を旗印に、社会貢献を

昭和 30 年代後半から 40 年代にかけては、日本の大手電機メーカーが続々と拠点を地方に進出し始めた時代で、東北にもブラウン管や磁気テープ、半導体などさまざまな先端産業の拠点が置かれるようになりました。

電機メーカーは基本的に設備産業ですから、ラインの一部に不具合などがあると生産がストップしてしまいますね。そういう場合は関東・関西からメーカーのエンジニアを呼ぶわけですが、当時の交通事情では来るのに大変な時間がかかります。早くても 1 日、遅いときには 2~3 日もかかりました。それだけの長時間にわたって生産ラインが停止するのはメーカーにとって大きな損失であり、「なんとかいい方法はないか」と皆さんが悩んでいたのです。そこへ私が「お手伝いすることはありますか？」と訪ねたのですから、ありがたいことに仕事はたくさんありました。まさに地元の強みです。

そんな経緯で、日本を代表する大手メーカー各社とお付き合いをさせていただくようになり、臨時のサポートをするエンジニアというだけでなく、製造や開発に関する悩みなどを気軽に相談いただける機会が増えました。日ごろの会話の中からニーズを感じ、製品の精度を上げるために「測定する装置をつくりましょう」と提案したこと

から、「計測」と「制御」を旗印に掲げた現在の事業の母体が形成されたのです。

部品ひとつひとつの精度が上がり、しっかりとした品質で市場に出回るようになれば、「日本製品はいいね」とワールドワイドで大きな評価が得られます。実際に、資源もなく敗戦後間もない国が経済大国になったのは、そのようなモノづくりをしてきたからだと思っています。当時から現在に至るまで、私はそこに夢を持ち続け、私どもで取り組める分野から何らかの形で「社会に貢献できたら」と地道に取り組んできました。

個別仕様に対応する「オーダーメイド」

自宅の四畳半の寢床を仕事場にして、たったひとりで始めた事業でしたが、需要が高まるにつれて人手が必要になり、共に働く若い人をひとりふたりと募っていきしました。そんなふうに始まった会社ですから「人間くささ」が根底にあり、今も失われていません。昨今はいろいろと忌まわしい事件が多く、人情の大切さが忘れられていると思います。そういうことのない社会を、切に望みます。私たちはいつでも人間味のある組織でありたい。企業理念である「創造と奉仕の精神」は「独創的な発想でモノづくりをして、いいモノを世の中に出して奉仕していこう」という意味の言葉です。

弊社の営業はおもに、お客様の抱えている「今、こういうことで悩んでいる。これをなんとかしたい。ここをこんなふうにしてほしい」という課題や願望を仕様書という

形で出していただくことから始まります。それを基に、満足していただける結果を出

せるよう努力と工夫をするわけです。いわば個別仕様に対応する「オーダーメイド」

ですね。この分野でこの規模でそれをやっているのは、おそらく我々だけでしょう。

利益の面で考えると、持ち出しが多いくらいですよ（笑）。そのつどゼロから出発して

考え、設計・試作をしていますから。しかし、お客様には大変喜んでいただいております。

それが我々の喜びでもあります。

顧客満足度を第一に考える姿勢は、自然と信頼関係を創り出します。弊社は信頼をと

ても大切にしていますから、機密保持についても万全の態勢をとっています。基本的

に「1業種1社」で対応しており、これまでにトラブルは一度もありません。こうし

た積み重ねによってさらに信頼を深めていただき、お客様がライバルメーカーへ弊社

を紹介して下さることも少なくありません。

新エネルギーという「夢」に向かって



将来に向けて地球規模で考えていかなければ

ならないテーマとして「いかに理想のエネル

ギーを創り出すか」という問題があります。

環境問題の深刻さや脱石油の必要性を考える

と、代替エネルギーの開発は急務です。

エネルギーといえば、弊社は大変幸せなことに大手メーカーからリチウムイオン二次電池関連の計測器をオファーされ、十数年を経て軌道に乗り、現在は営業の柱となっています。また、私は若い頃から「磁気」に興味を持っていまして、磁気を利用した新エネルギーを創り出せないかと常々考えていました。それはまだ実現していませんが、磁気にこだわり続けてきたことで、ハイテク産業のさまざまな部品に使われる磁気素材の開発に役立つ「超高周波帯域透磁率測定装置」を、世界で唯一商品化することができました。黒子のように地道に取り組んできた開発が、世界の産業を進化させる製品となったわけで、まさに社会貢献ができたと自負しております。

いつかは磁気エネルギーを利用した代替エネルギーを、なんとしても完成させたいですね。森羅万象に害のない、無充電で半永久的に使え、地球を何周もできるような…
…そんなエネルギーの革命を起こしたい。夢のまた夢みたいな話ですが、いつまでも
そういう「夢」を忘れずに、地道にモノづくりを続ける技術者集団でありたいと思っています。